

政策担当者会議 第3部

「本音で語るこれからの幼児教育」

学校法人福岡幼児学園 理事長 尾上正史

2023.07.03

政策担当者会議 第3部

テーマ：「**本音**で語るこれからの幼児教育」

1.教育の質の向上

2.子育て支援（0~2歳児）

3.教育・保育の在り方

（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）

4.私学としての多様な教育と上乗せ徴収・実費徴収

5.文科省と子ども家庭庁と全日私幼連

6.提案（次世代育成）

おまけ：自己紹介

1.教育の質の向上

①人員配置と教育・保育の質の関係性

- ▶保育者が時間的なゆとりをもち子どもと関わる
- ▶子どもの伸びやかな育つ力を日々丁寧に伝える時間を確保する（具体例：会話、ドキュメントの活用）

▶子どもの育ちの観点で

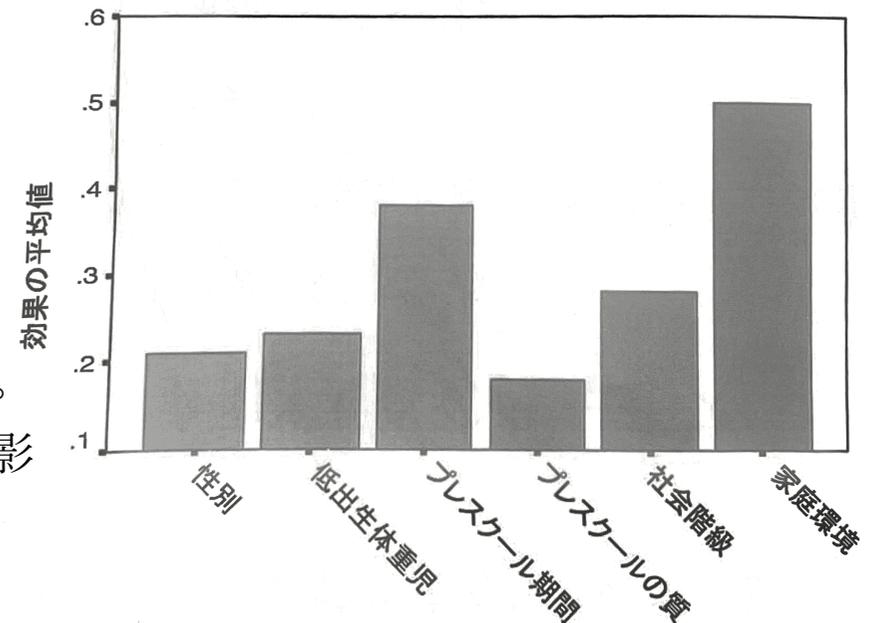
保護者への丁寧な情報発信と対応（共感・肯定）は重要。

なぜなら、家庭環境はこどもの育ちに対して、最も良い影響を与えるから。

園と家庭の両輪で一緒に子どもをみていく関係性(信頼関係)をつくる事は、子どもの生涯に渡って良い影響を及ぼす。

個人、家庭、幼児教育の効果比較

リテラシーへの効果



エドワード・メルウィッシュ

「オックスフォード大学教授、ロンドン大学 バーベック校教授、ウーロンゴン大学客員教授。シュアスタート、EPPE(就学前教育の効果的な実証) 縦断調査を共同で実施。現在、SEED (乳幼児教育と発達への調剤) プロジェクトを進行中。研究は、イギリスはじめ複数の国の、子ども福祉、乳幼児教育、こどもの貧困、保護者支援の政策に影響を与えている。

1.教育の質の向上

①人員配置と教育・保育の質の関係性

例えば、人員配置でフルタイムパートが1人増えるとできること

▶保育の質の観点でいえば

就学前の教育という観点では、園の中での生活や遊びの中で保育者が丁寧に子どもの姿を見ながら、対話を重ね、変動的に活動を計画する柔軟さが求められます。

- ・ 外部研修の参加
- ・ チームで話し合える時間
- ・ 保護者への丁寧な情報発信と対応

▶職場の質の観点でいえば

園の規模、体制による所が大きいかとは思いますが、労働環境の整備は保育の質を上げる上で処遇の改善と共に重要な要素です。

- ・ 休憩時間の確保
- ・ 書類作成の時間の確保等
- ・ 有休消化の対応

1.教育の質の向上

①人員配置と教育・保育の質の関係性

人員配置を改善する為には、現状の把握をした上で提言する事が一定理解を得る為に最低限必要な措置と考えます。現場の労働環境を把握する項目、例えば、、、

1.全国の幼稚園、認定こども園、保育園の労働状況(時間外労働)と人員配置の相関関係
(設置基準+地方自治体独自配置基準+法人独自追加配置)のデータ

2.ICT導入の有無と労働状況(時間外労働)の相関関係

3.人員配置と研修時間の相関関係

現状を把握した上で、これらのデータを持って提言内容を検討し、人員配置の改善による教育の質の向上が見込めることを提言できるのではないのでしょうか。

1.教育の質の向上

②各個人の育成と教育の質の関係性

▶保育者の育成は、各園、法人に課せられた最も重要な仕事の一つです。

各保育者の成長がそのまま、子どもの育ちへ良い影響がある事は、この仕事に関わった人間なら、データと言わずも、誰しも理解できるところではないでしょうか。

個人の育成で大切なこと

1.職場の関係性が良いこと(同僚から学び合う事が重要)

2.保育の中で子どもと対話をする心持ちがある事

(子どもの想いや考えている事を丁寧に理解しようとする姿勢が重要)

3.子どもを面白がれる事(子どもと一緒に面白いと感じられる感性を育むことが重要)

4.仕事内容が明確になっている事(自分の仕事内容と責任が理解できていることが重要)

これらの事を、社内ルール・仕組みに落とし込み、園内研修、外部研修を行い、職場環境として整えることが園のマネジメントとして求められる。

1.教育の質の向上

③組織としての取り組み

▶保育者育成の為、ルールをつくり、職場環境を整える事がマネジメントの観点で求められる。

1.園内ルールづくり

- ・法人理念、教育方針、職員の行動指針など、考え方について整理して職員研修を行い伝える。
- ・実践発表、公開保育などの外部評価を通じて、定期的にPDCAサイクルで見直しを行う。

2.職場環境づくり

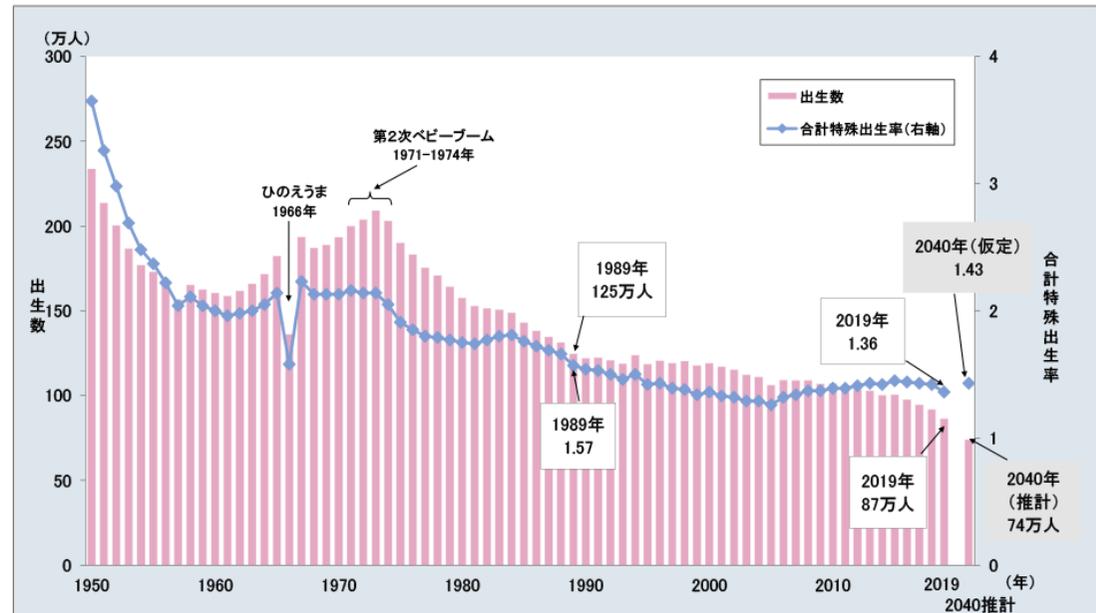
- ・職場の関係性づくり
互いの気づきや意見が発信できるように、年度毎にチームビルディングや職員会議内でファシリテーションできる人材を育成する。
- ・子どもと時間をかけて対話をする心持ちがもてる職員体制
キャリア・若手職員の組合せ、1on1面談、メンタルケア、コーチングなど。
- ・子どもを面白い保育者と職場風土
子どもの面白さに気づき共感し共有し、ともに面白いことに保育者としての醍醐味があると現場のスタッフをみて感じます。保育者がやりがいを持って仕事に集中でき個性を活かす為、職員体制と同僚の関係性を整える事が、ドラッカーが言うマネジメント(つまり、人の強みを活かすこと)なのではないでしょうか。

2.子育て支援（0~2歳児）

➤子育てを取り巻く環境

- ・ 保護者が子どもを産む前から、少子化だった。
- ・ 子どもと関わる機会がないまま親になる。
- ・ 子どものことがわからない。知らない。
- ・ 少子化だからこそ、親も少なく、対話的な子育てがしにくい環境

図表 1-1-7 出生数、合計特殊出生率の推移



資料：2019年までは厚生労働省政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室「人口動態統計」（2019年は概数）、2040年の出生数は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」における出生中位・死亡中位仮定による推計値。

2.子育て支援（0~2歳児）

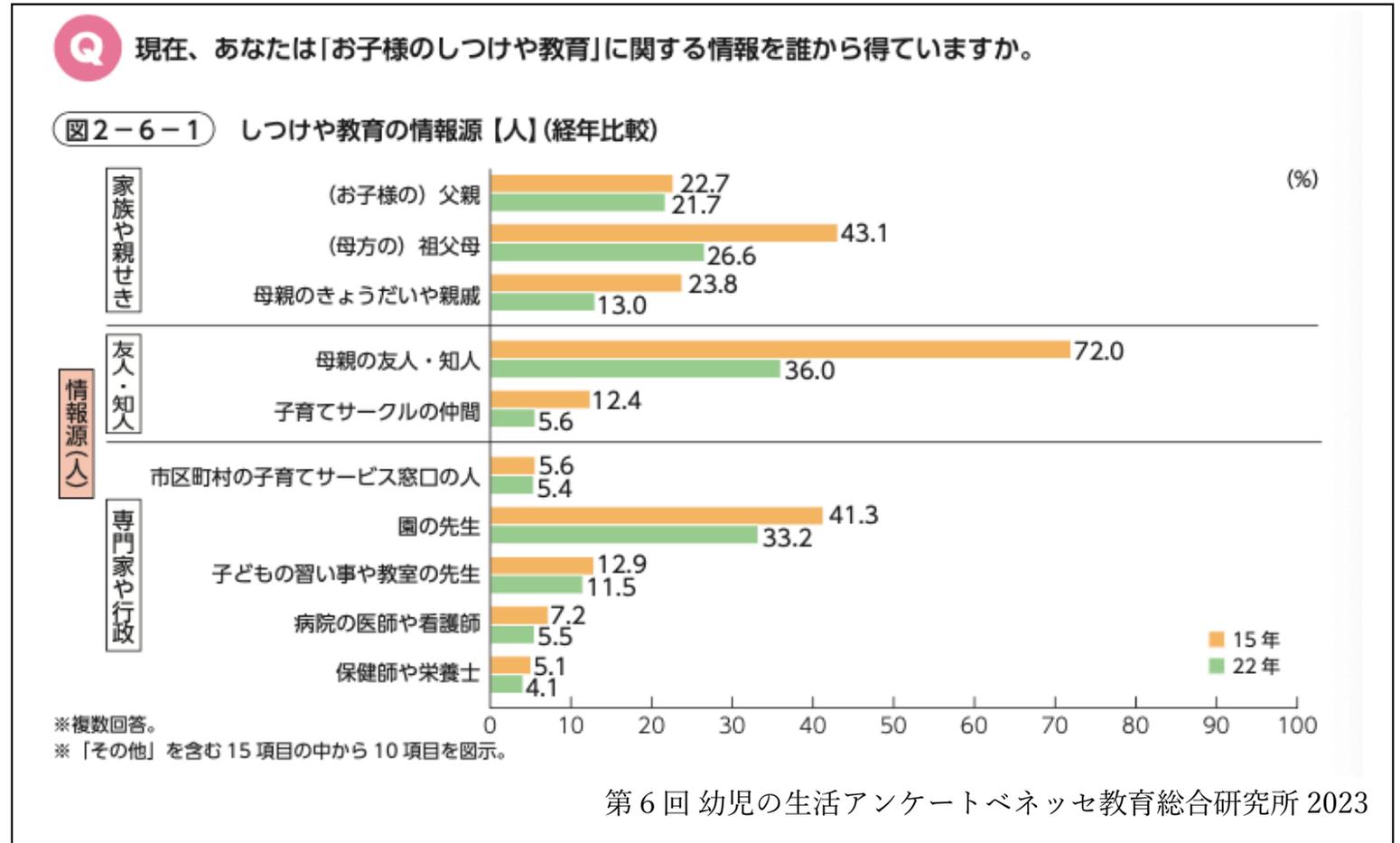
相談相手少
孤立化



情報過多
SNS
インターネット社会

2.子育て支援（0~2歳児）

➤しつけや教育の情報源は、「母親の友人・知人」「祖父母」が減り「SNS」が増えている



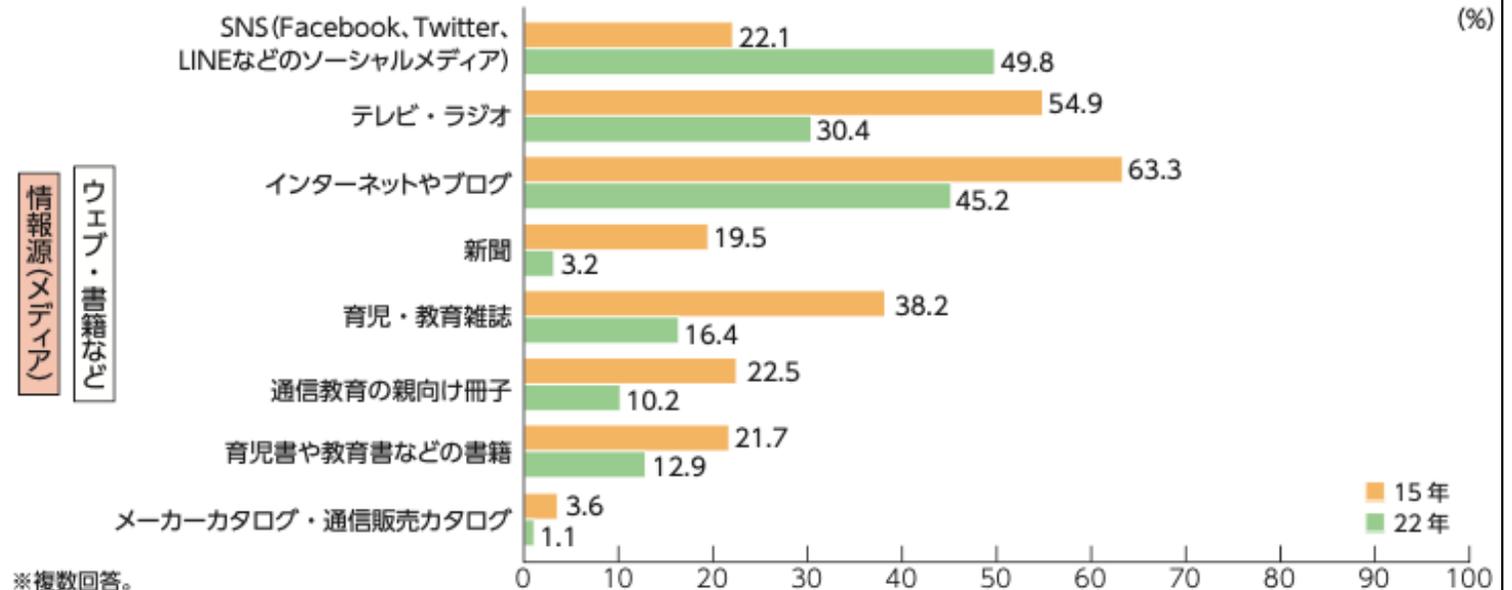
2.子育て支援（0~2歳児）

➤しつけや教育の情報源は、「母親の友人・知人」「祖父母」が減り「SNS」が増えている



現在、あなたは「お子様のしつけや教育」に関する情報をどこから得ていますか。

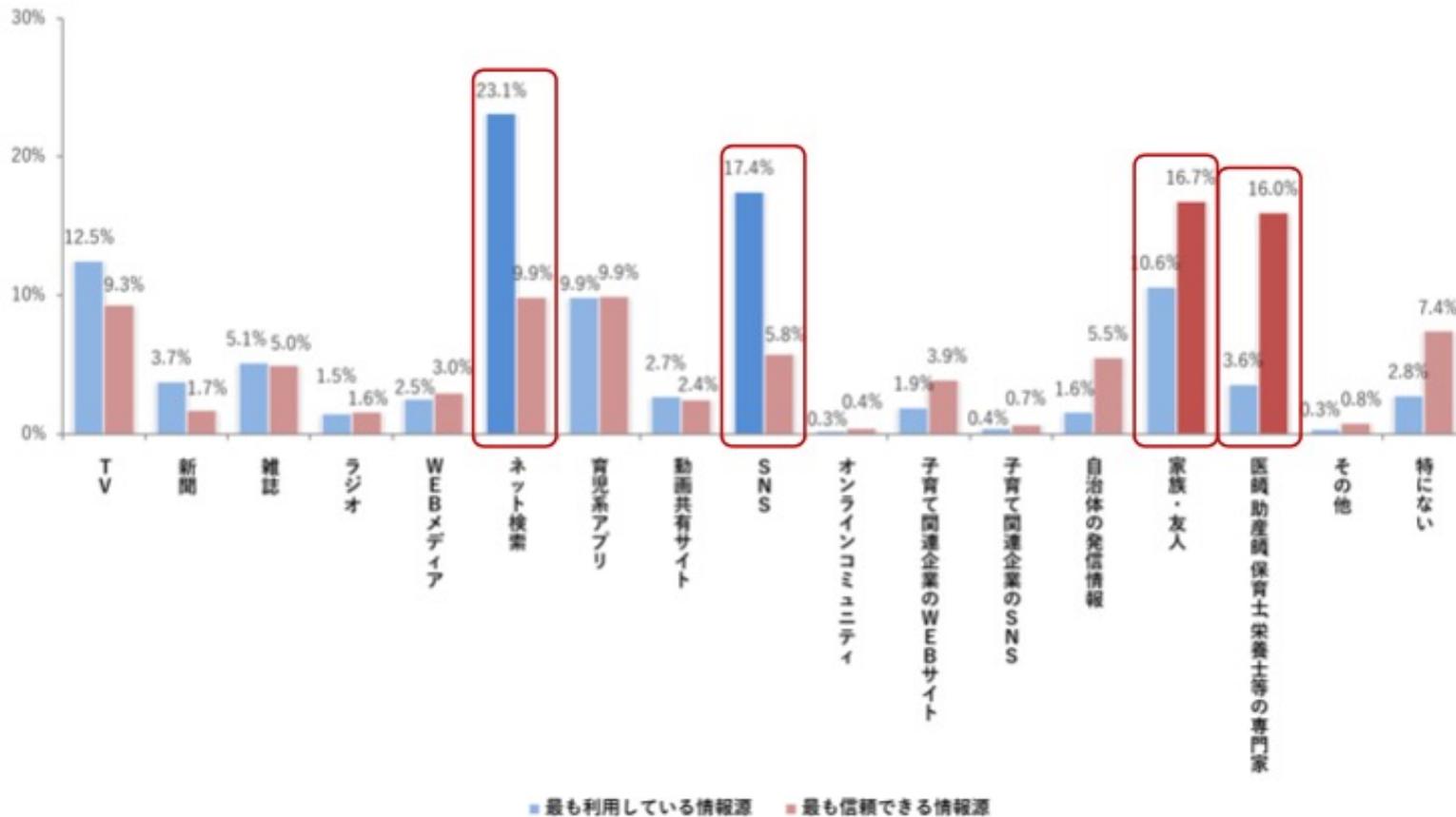
図2-6-2 しつけや教育の情報源【メディア】(経年比較)



※複数回答。
※「その他」は図示していない。

2.子育て支援（0~2歳児）

・子育てに関するあなたの情報源について、「最も利用している情報源」と「最も信頼できる情報源」をそれぞれお選びください。（n=1,214）



明治・ポーネルド 子育てに関する情報収集についての意識調査 2022

2.子育て支援（0~2歳児）

▶就園していない子どもは意外に多い。

0~2歳児の在宅育児中の家庭向けに
幼稚園ができる子育て支援プログラムを

▶意義：未就園段階の親子をサポートする場が必要

地域で子どもの世界が広がる遊びの場

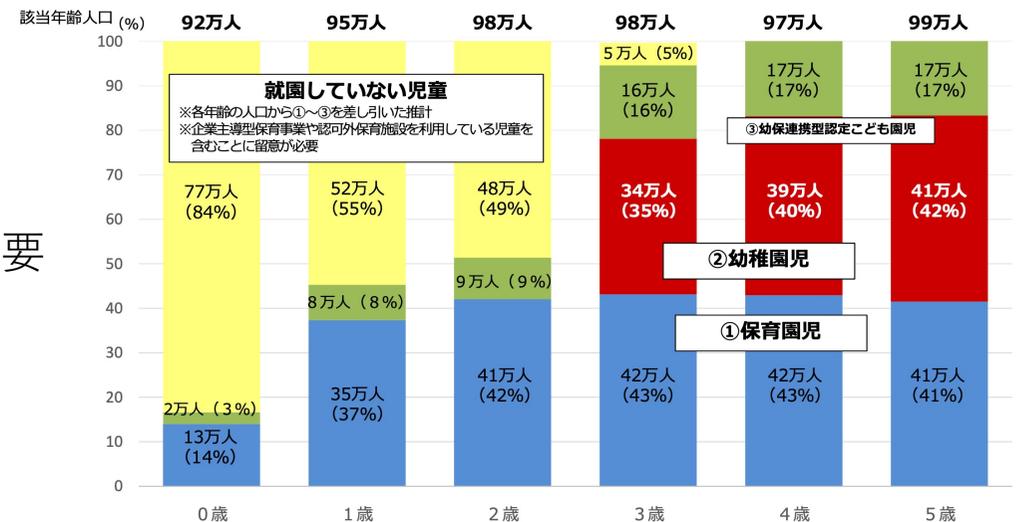
地域で子育て仲間（ママ友）とつながる場

地域で専門家に育児相談ができる場

地域で遊び場などの遊びの情報が得られる場

保育園・幼稚園等の年齢別利用者数及び割合（令和元年度）

令和3年4月23日
社会的養育専門委員会資料
より数値等を更新



※該当年齢人口は総務省統計局による人口推計年報（令和元年10月1日現在）より。なお、各年齢の数値は、人口推計年報における当該年齢と当該年齢より1歳上の年齢の数値を合計し、2で除して算出したもの。
 ※幼保連携型認定こども園の数値は令和元年度「認定こども園に関する状況調査」（平成31年4月1日現在）より。
 ※「幼稚園」には特別支援学校幼稚園、幼稚園型認定こども園も含む。数値は令和元年度「学校基本調査」（確定値、令和元年5月1日現在）より。
 ※保育園の数値は令和元年の「待機児童数調査」（平成31年4月1日現在）より。なお、「保育園」には地方数量型認定こども園、保育所型認定こども園、特定地域型保育事業も含む。4歳と5歳の数値については、「待機児童数調査」の4歳以上の数値を「社会福祉施設等調査」（平成30年10月1日現在）の年齢別の保育所、保育所型認定こども園、地域型保育事業所の利用者数比により按分したもの。
 ※「推計未就園児数」は、該当年齢人口から幼稚園在園者数、保育園在園者数及び、幼保連携型認定こども園在園者数を差し引いて推計したものである。このため、企業主導型保育事業や認可外保育施設を利用する児童を含む。
 ※四捨五入の関係により、合計が合わない場合がある。

2.子育て支援（0~2歳児）

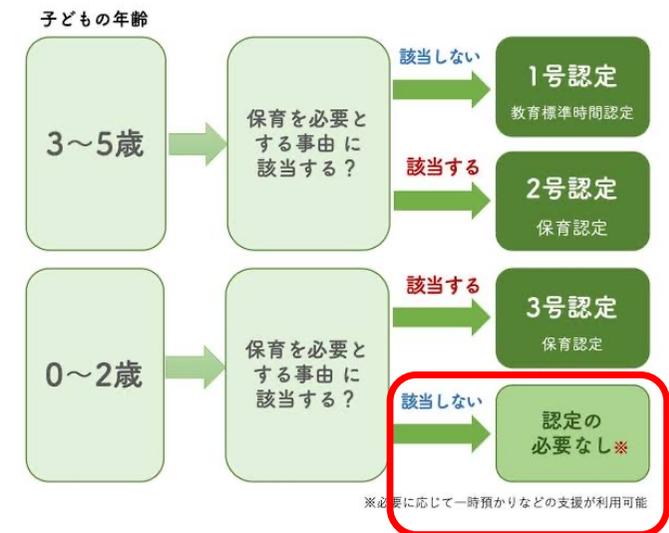
➤提言：すべての子どもに乳幼児教育を受ける権利を保障する

現在の認定基準：親の就労時間

現状：在宅育児中の子どもは枠組みの外に置かれている。

提言：枠の外に置かれている子ども（0~2歳児）を

**仮称「4号認定」とし、0~2歳児における
教育標準時間認定を創設し、就労要件なしに
すべての子どもの教育を受ける権利を保障する。**



➤補助対象世帯・補助対象事業にする

こどもの権利条約の中でも、教育を受ける権利も重要な項目のひとつとされている。

すべての子どもが教育を受ける権利を持ち、その教育は基本的で質の高いものでなければならないと規定されています。

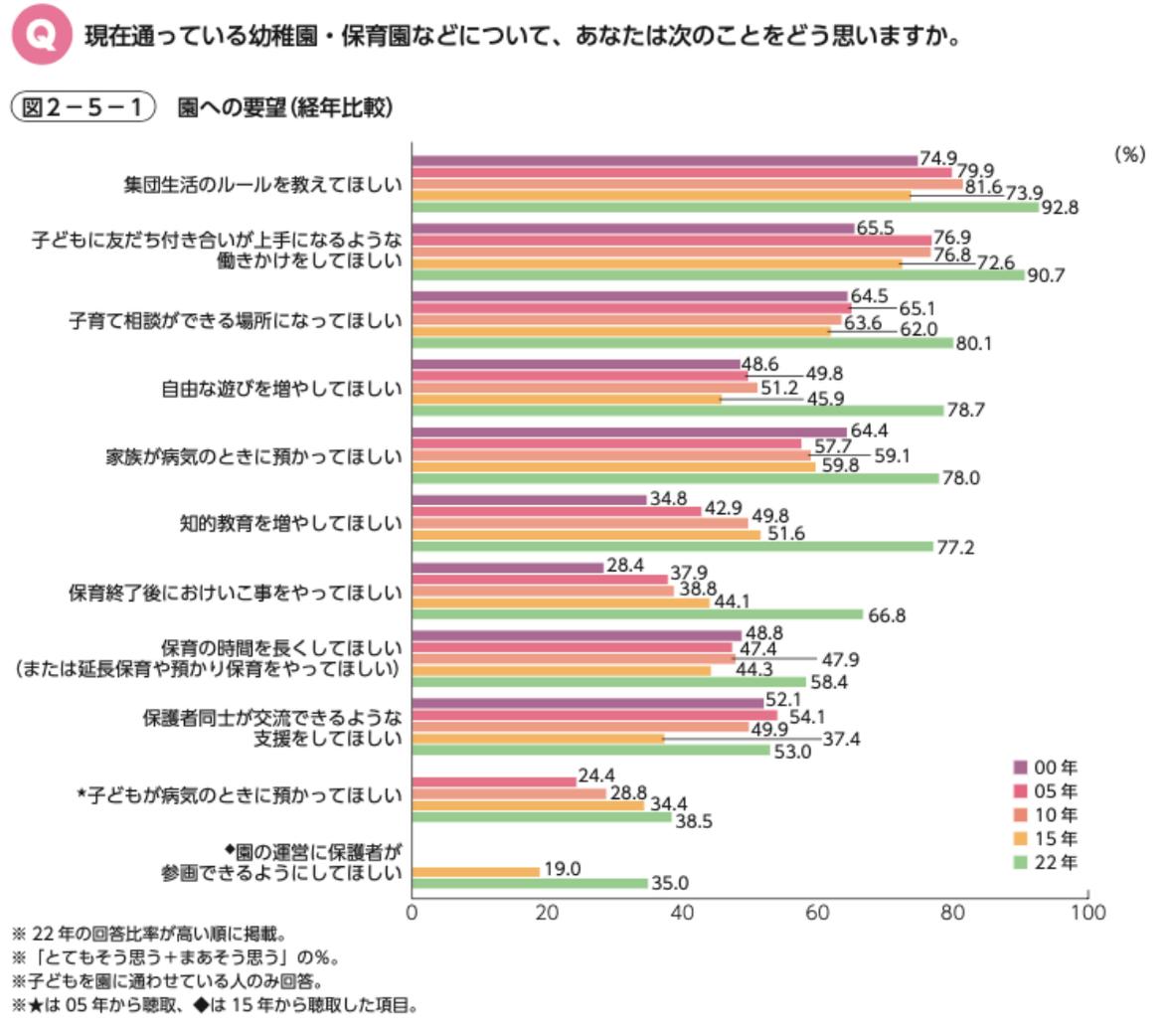
3. 教育・保育の在り方（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）

- ▶社会環境の変化に応じて、教育・保育のあり方は変化してきた。
- ・非認知・認知のコントラストで教育・保育を語る潮流がある
- ・本質的には、子どもが活動したり、遊ぶ空間が自分の発想や考えを自由に表現できるかどうかが重要
- ・自由に表現でき、自分のアイデアを基に挑戦する、やりたいことに取り組める、実現できる時間・空間を保育者や家庭、行政が協力して支援しながら確保することが本来のあり方ではないか。
- ・あえて言うと、子どもは、環境を選べない。

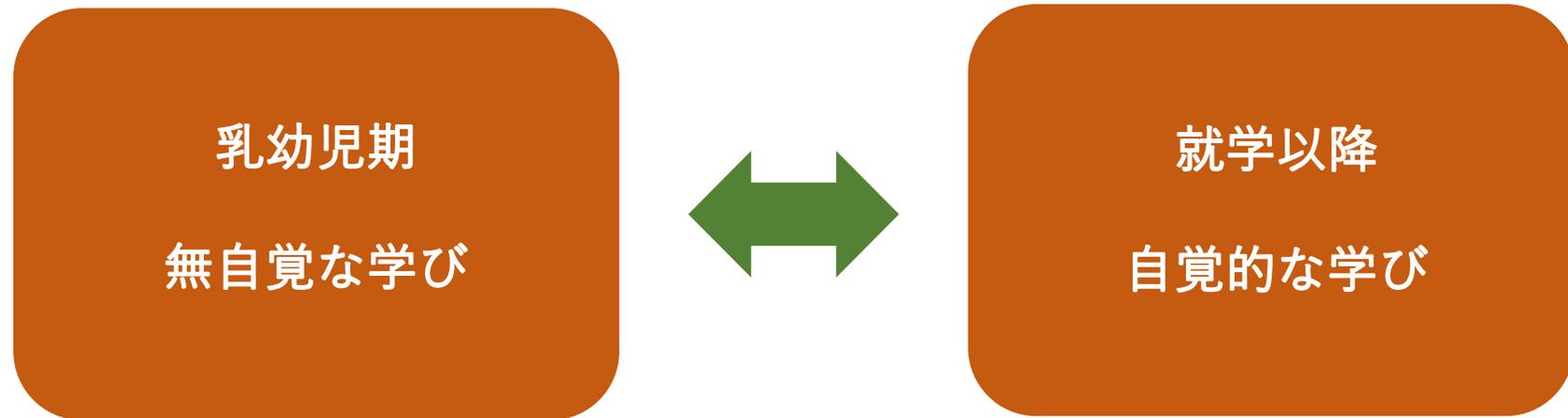
3. 教育・保育の在り方（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）

➤ 経営視点 園児募集と保育のあり方

- #### ➤ 保護者のニーズ
- ・ 集団生活のルール
 - ・ 友だち付き合い
 - ・ 子育て相談
 - ・ 知的教育
 - ・ おけいこ事



3. 教育・保育の在り方（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）



「無自覚」だから伝わりにくい

3. 教育・保育の在り方（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）

「無自覚」だからこそ、
子どもらしい姿が見られる。

- ・ 子ども本来の姿を丁寧に伝えること。

3. 教育・保育の在り方（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）

子ども本来の姿を丁寧に伝えること。



保護者や地域に向けた発信
（コミュニケーション）

- ・ 笑顔で対応
- ・ 共感と肯定
- ・ 親切に応える
- ・ 園/クラスだより/連絡帳
- ・ ドキュメンテーション
- ・ LINE/SNS 発信

4.私学としての多様な教育と上乗せ徴収・実費徴収

- 多様な教育の定義？
- 基本的には自園で決めること。
- 最終的には提供する内容と利用者との関係で決まる。
- 上乗せ徴収・実費徴収の例などあれば。

5.これからの地方振興活動のあり方

➤背景：私学助成→新制度への移行園の増加（環境の変化）

市町村に対して、今後どのようにアプローチするか？

①：こども子育て会議

②：各地域での取組み

（ステークホルダーである行政・議員・事業者・PTAとの勉強会）

→振興活動の重要性・手法について、事例の共有などの広報活動は重要

課題：地域特性を十分に把握しているか。（データ見える化）

③広報活動・PRを推進し、社会に情報発信する手法を他団体・組織から学ぶ。

**幼児教育機関として「まちづくり」の
重要なインフラになりえるくらいの自覚をもって立ち回るべき。**

5.これからの地方振興活動のあり方

●佐野市：任意参加による勉強会の開催

公式の「子ども・子育て会議」の開催回数は限られており、それだけでは十分な審議ができないことから、会長の発案により任意参加の勉強会を開催している。この勉強会には、委員や行政関係者が多数出席しており、新制度における地方版「子ども・子育て会議」の目的、国や地方の役割の違い、ニーズ調査の目的や活用方法等に関する認識の共有化を図るとともに、それぞれの立場から意見を出して検討するなど、公式の会議の補完的役割を果たしている。

また、委員が幼児教育・保育の現場について理解が深められるよう、幼稚園や保育園でも実施するなどの工夫も行われている。

6.文科省と子ども家庭庁と全日私幼連

➤全日のアイデンティティ

- ・「こどもがまんなか」の価値観に基き、教育を軸とした政策・制度など、国・行政に対して提言・主張ができる

- ・ **PTA**団体との連携（**PTA**：教師・親との関係性）

意義：親の立場・視点からの意見を主張できる

事例：各地区での出身議員と親世帯との交流

→積極的にアンケートなど必要なデータを集める事が大切

- ・ 私学人として「お金が出るからではなく、地域の子どもの為」

6.文科省と子ども家庭庁と全日私幼連

▶文部科学省との連携・振興

- ・幼稚園の教育内容等
- ・学校評価の推進
- ・幼稚園における在宅家庭の児童の受け入れ
- ・調査研究
- ・地域の幼児教育の質の向上の体制強化

▶ディスカッションテーマ：0歳からの教育

業界ワードで誤った伝わり方をする懸念がある。

→言い換えるセンテンス「_____」

6.文科省と子ども家庭庁と全日私幼連

➤子ども家庭庁 連携・振興

- ・ 連携するテーマ？
- ・ 振興？

子ども政策の新たな推進体制に関する基本方針のポイント

～こどもまんなか社会を目指す子ども家庭庁の創設～

- 常にこどもの最善の利益を第一に考え、子どもに関する取組・政策を我が国社会の真ん中に据えて（「こどもまんなか社会」）、こどもの視点で、子どもを取り巻くあらゆる環境を視野に入れ、こどもの権利を保障し、子どもを誰一人取り残さず、健やかな成長を社会全体で後押し。
- そのための新たな司令塔として、子ども家庭庁を創設。

今後の子ども政策の基本理念

こどもの視点、子育て当事者の視点に立った政策立案

- ◆ こどもは保護者や社会の支えを受けながら自己を確立していく主体と認識し、保護すべきところは保護しつつ、**こどもの意見を年齢や発達段階に応じて政策に反映**。若者の社会参画の促進。
- ◆ 家庭が基盤。親の成長を支援することがこどものより良い成長につながる。**子育て当事者の意見を政策に反映**。

全てのこどもの健やかな成長、Well-beingの向上

- ◆ 妊娠前から、妊娠・出産、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期、青年期の**一連の成長過程**において、**良質かつ適切な保健、医療、療育、福祉、教育**を提供。
- ◆ 安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、**様々な学びや体験ができて、幸せな状態（Well-being）**で成長できるよう、家庭、学校、職域、地域等が**一体的**に取り組む。

誰一人取り残さず、抜け落ちることのない支援

- ◆ 全てのこどもが、施策対象として**取り残されることなく**、当事者として持続可能な社会の実現に参画できるよう支援。
- ◆ こども本人の福祉というだけにとどまらない我が国社会の持続可能性にも資するとの認識。

こどもや家庭が抱える様々な複合する課題に対し、制度や組織による縦割りの壁、年齢の壁を克服した切れ目ない包括的な支援

- ◆ こどもの困難は、こどもの要因、家庭の要因、家庭内の関係性の要因、環境の要因等、様々な要因が複合的に重なり合って表出。**問題行動はこどもからのSOS**。保護者自身にも**支援が必要**。
- ◆ 教育、福祉、保健、医療、雇用などに**関係する機関や団体が密接にネットワーク**を形成し支援。**18歳など特定の年齢で一律に区切ることなく**、こどもや若者が円滑に社会生活を送ることができるようになるまで伴走。

待ちの支援から、予防的な関わりを強化するとともに、必要なこども・家庭に支援が確実に届くようプッシュ型支援、アウトリーチ型支援に転換

- ◆ 地域における関係機関やNPO等の民間団体等が連携して、**こどもにとって適切な場所に向いてオーダーメイドの支援を行うアウトリーチ型支援（訪問支援）**の充実。
- ◆ SNSを活用した**プッシュ型の情報発信**の充実。

データ・統計を活用したエビデンスに基づく政策立案、PDCAサイクル（評価・改善）

- ◆ 様々な**データや統計を活用**するとともに、**こどもからの意見聴取などの定性的な事実も活用**し、個人情報を取り扱う場合にあってはこども本人等の権利利益の保護にも十分に配慮しながら、エビデンスに基づき多面的に政策を立案し、評価し、改善。

6.文科省と子ども家庭庁と全日私幼連

- 教育については、
文部科学省の下で充実、
密接に連携。
- 就学前の子どもの育ちの
保障や、すべての子ども
の居場所づくりを主導する

子ども家庭庁の必要性、目指すもの

- ◆ 子ども政策を更に強力に進めていくため、常に子どもの視点に立ち、子どもの最善の利益を第一に考え、**子どもまんなか社会の実現に向けて専一に取り組む独立した行政組織と専任の大臣が必要。**
- ◆ 新たな行政組織として、**子どもが、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができる社会の実現に向けて、子どもと家庭の福祉の増進・保健の向上等の支援、子どもの権利利益の擁護を任務とする子ども家庭庁を創設。**
- ◆ **子どもにとって必要不可欠な教育は文部科学省の下で充実。子ども家庭庁と文部科学省が密接に連携。**

子ども家庭庁の基本姿勢

- ① **子どもの視点、子育て当事者の視点**
子どもや若者の意見を年齢や発達の程度に応じて政策に反映。子育て当事者の意見を政策に反映。
- ② **地方自治体との連携強化**
現場のニーズを踏まえた先進的な取組を横展開し、必要に応じ制度化。人事交流の推進。定期的な協議の場の設置。
- ③ **NPOをはじめとする市民社会との積極的な対話・連携・協働**
NPO等の様々な民間団体や、民生・児童委員、青少年相談員、保護司等とのネットワークの強化。民間人の積極登用。

強い司令塔機能

- ◆ 内閣総理大臣の直属の機関として、**内閣府の外局に。**
- ◆ **これまで別々に担われてきた司令塔機能を子ども家庭庁に一本化し、就学前の全ての子どもの育ちの保障や全ての子どもの居場所づくりなどを主導する。**
- ◆ 各省大臣に対する**勧告権等を有する**子ども政策を担当する内閣府特命担当大臣を**必置化**。
- ◆ 別々に運営されてきた**総理を長とする閣僚会議を一体的に運営**。
- ◆ 別々に作成・推進されてきた**大綱を一体的に作成・推進**。

法律・事務の移管・共管・関与

- ◆ 主として子どもの権利利益の擁護、子どもや家庭の福祉・保健等の支援を目的とするものは**移管**。
- ◆ 子どもの権利利益の擁護、子どもや家庭の福祉・保健等の支援とそれ以外の政策分野を含んでいるものは**共管**。
- ◆ 国民全体の教育の振興等を目的とするものは、関係府省庁の所管としつつ、個別作用法に具体的な関与を規定するほか、**総合調整**。

新規の政策課題や隙間事案への対応

- ◆ 子ども政策に関し他省に属しない事務を担い、**各省庁の間で抜け落ちることがないように必要な取組を行うとともに、新規の政策課題に取り組む。**

おまけ（次世代育成）

▶全国私立幼稚園連盟として**次世代育成**に取り組む

1.各地域での取組みのシェア

地域の異なる課題を次世代が今後どのように取り組んでいくか？

問題意識や取組みをシェア

2.年1回全国の次世代を集める会を実施する。

全国組織の良さは各地域を超えて集まり議論ができる場であること。

少子高齢化、人口減少ではあるが、業界を担う若手の次世代を育成することは今後の地域内での存続、業界の存続に関わってくる。

自己紹介



尾上正史 

学校法人福岡幼児学園 理事長

紅葉幼稚園 園長

福岡県私立幼稚園振興協会 会長

福岡中小企業経営者協会 副会長

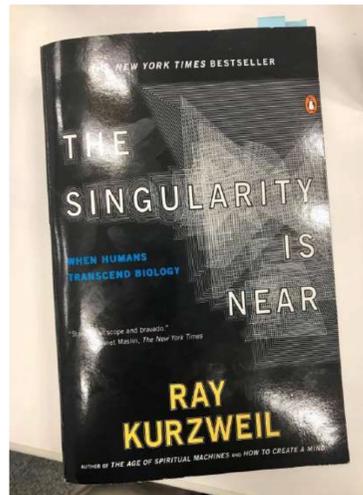
1959年1月生（年齢64歳）

略歴：九州大学 経済学部卒後、創業者が高齢の為、家業に入職、バス運転手、現場、事務職を経て、現在に至る。

補足資料

3. 教育・保育の在り方（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）

➤時代観・客観的な視点から教育をとらえることも重要ではないか。



Singularity

= When humans transcend biology
with the power of technology

人間が技術の力によって
生物学的な限界を超越する時

資料 : Ray Kurzweil "The Singularity Is Near: When Humans Transcend Biology" Penguin Books (2006/9)

17

3. 教育・保育の在り方（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）

➤AI時代を見据えた人材育成の視点から幼児教育を捉える。

仕事はフロントとバックの時代に

現段階の見立て

- 大組織の中心をなす「ミドル*」機能は急激にリーン化する
- Interpersonal skillsが本当に大切に、、非コミュではダメ
- 実際にサービスやモノを生み出し、創る能力は残る

- ✓ 欲しい物が何かを描ける能力
- ✓ 何が正しく、何が正しくないかを判断する
- ✓ 「知覚」が根源

*業務・部門を市場フロントエンド（フロント）、サービスやモノを作るバックエンド（バック）、間をつなぐミドルに割った時の話。トップマネジメント、ミドルマネジメント、ラインのミドルではない

資料：安宅和人 G1サミット 2023 「Generative AI」セッション（Mar. 19, 2023）登壇時の発言
安宅和人 「知性の核心は知覚にある」 Diamond ハーバード・ビジネス・レビュー（2017年5月号）

3. 教育・保育の在り方（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）

➤AIと他者と協働する人が今まで以上に求められる。



これから起きる本当の競争

よくある誤解	本当の姿
• AI vs 人間	<ul style="list-style-type: none">• 自分とその周りの経験だけから学び、AIやデータの力を使わない人 <p style="text-align: center;">VS</p> <ul style="list-style-type: none">• 手に入る限りのあらゆるデータからコンピューティングパワーを利用して学び、その力を活用する人

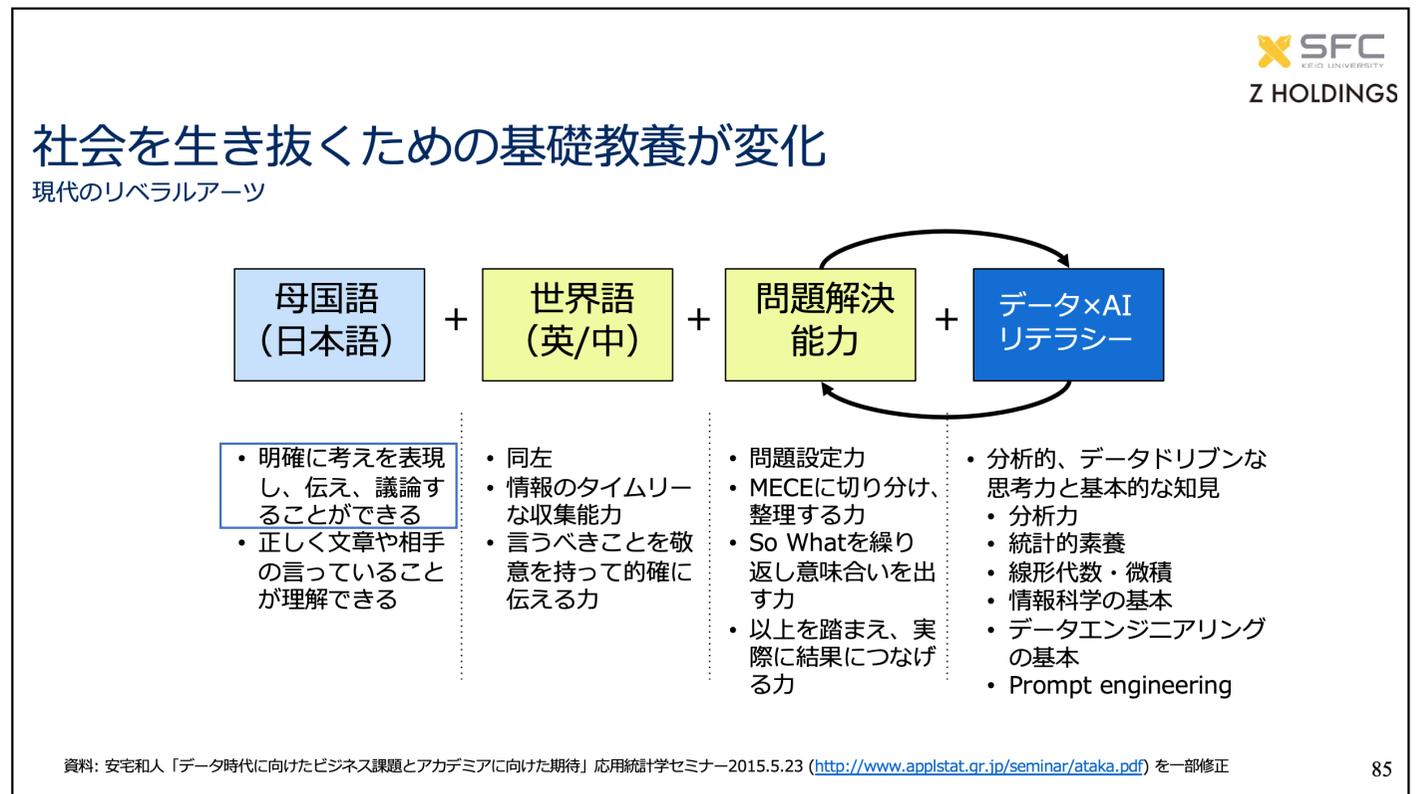
中国は中等教育段階で深層学習、GANまでの教育を2018年に導入開始

資料: 安宅和人・矢野和男 「生命に学び人に寄り添うAI」 日立評論 2016年4月号 (http://www.hitachihoron.com/jp/pdf/2016/04/2016_04_00_talk.pdf)
阿部豊 EdTechZine 2019.2.22 (<https://edtechzine.jp/article/detail/1807>)

83

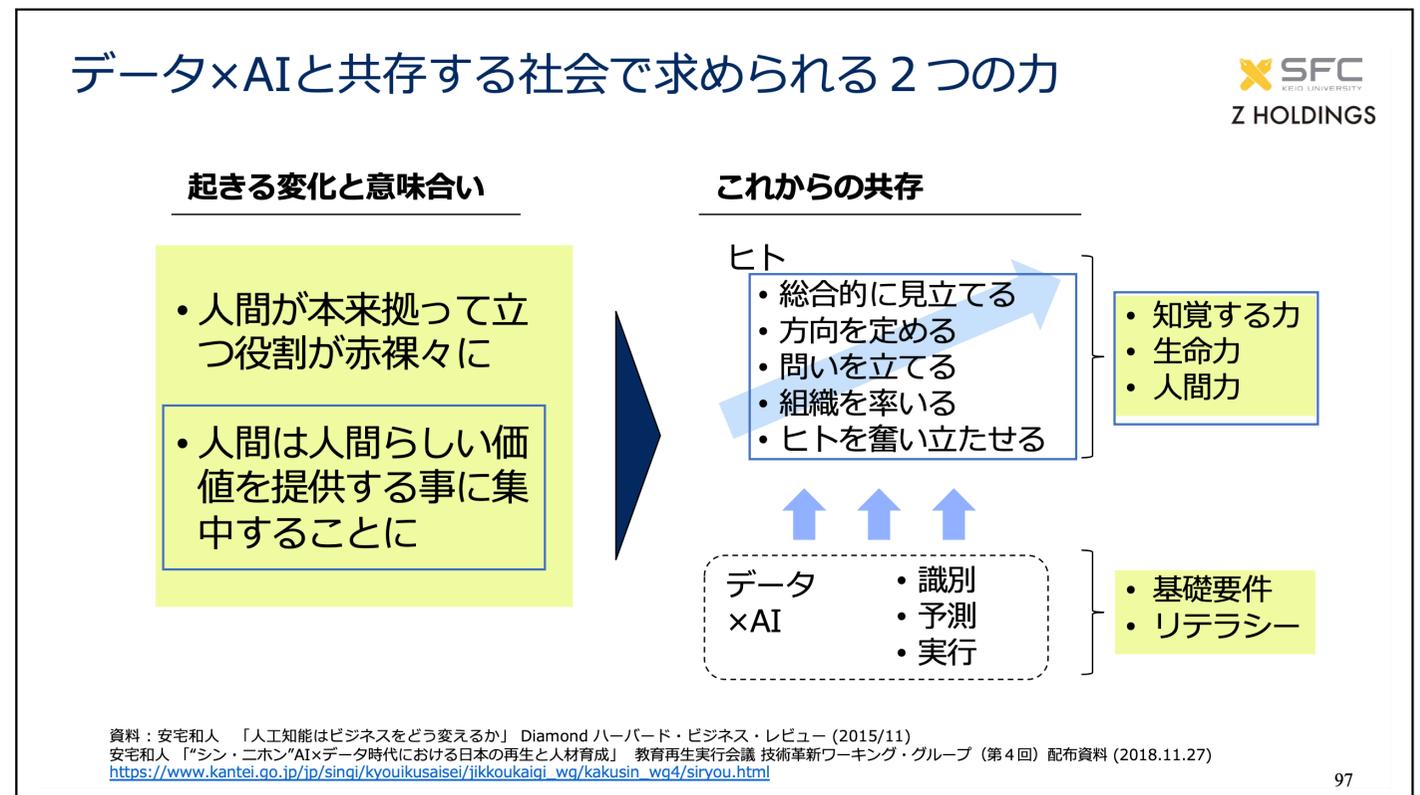
3. 教育・保育の在り方（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）

- その為の基礎教養は変化するが、コミュニケーションの基礎となる自己表現/他者理解の重要性は変わらない。



3. 教育・保育の在り方（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）

➤人間が人間らしい価値を提供することに集中



3. 教育・保育の在り方（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）

➤人間が人間らしい価値を提供するとは？

単独の個の知識の時代は終了

- 集合知 collective intelligence
- 人と人とのかかわり合いから現状を知り、価値提供の方向性を見出し、人を動かす、
- 作りたい未来のために必要なさまざま人を巻き込み、問いを投げかけ、知恵を生み出す
- 様々な知恵を一つにつなぎ形にしていく

資料：安宅和人「残すに値する未来を考える」第70回 富山県 高等学校教育研究発表大会 講演 (October 4, 2022)

101

3. 教育・保育の在り方（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）

➤時代の転換期、人材育成の方針を転換するタイミングが来ている。

人材育成方針を劇的に転換する必要



- 決まった答えがあるケースにおいて、与えられた問いに早く正確な答えを出すことの価値は急激に小さくなる、答える力よりも問う力、健全な懐疑心
- 作業ではなく意味や目的、意思、自分らしさ、憧れ、心のベクトル
- エンジニアとそれ以外の垣根は急激に小さくなる、AI×データを使い倒すことは本当に読み書きそろばんに。
- 人類と地球の共存が最大課題、Resilience、システム思考は基礎教養に
- 文理分断時代の終焉、人文系の問いをデータ×AIで解決する時代
- 各自の才能の解き放ちができるか、Teachingからcoaching, feedbackへ、十把一絡げから1to1へ、教え切りからreskill & upskillへ（教師も含めて）
- いままでのクラスにうまく収まらないoutlier（外れ値）的な子こそが宝

* 参考資料「知性に関する一つの考察」（本deckのappendix）

資料：安宅和人『AI時代に必要なスキルとは？』Benesse View Next Online（2023/02/07）；安宅和人分析（2/17/2023）

139

3. 教育・保育の在り方（幼児教育における非認知・認知それぞれの育ちを見守る）

➤夢をもてる、夢を伝えられる場＝園・家庭・地域

➤夢を応援する大人＝保護者・保育者・地域の方々

